

“恐竜くん”が「2013年恐竜業界 10大ニュース」を発表

容疑者ティラノサウルス？ 最初の鳥は翼が4枚？ 「あまちゃん」でも恐竜デビュー！

2013年の恐竜業界は意外性のある話題が盛りだくさんでした！

報道関係者各位

プレスリリース

平成 26 年1月 14 日

株式会社戦略コンサルティング・ファーム

企業のマーケティング活動に対するコンサルティング支援を展開する株式会社戦略コンサルティング・ファーム(本社:東京都渋谷区、代表取締役 藤田忍)が「恐竜エンターテインメント」としてプロデュースを手がける“恐竜くん”が「2013年 恐竜業界 10大ニュース」を発表いたしました。

世界中で盛んに発掘・研究が行われ、毎日のように新しいニュースが飛び込んでくる、驚きに満ちた恐竜研究の世界。2013年も数えきれないほど多くの発見がありました。そんな、活気あふれる恐竜研究のおもしろさをひとりでも多くの人に感じていただけたら……という思いで厳選した 10大ニュースを、恐竜くんが楽しく、わかりやすくご紹介します。

2013年 恐竜業界を震撼させた 10大ニュース

- ① 落札額 9 億円!? 恐竜研究史上最高額になるか、話題の格闘恐竜化石オークションへ。(11 月)
- ② 地味なあの子は「ニワトリ頭」？ 古株恐竜の意外な素顔に、全世界の恐竜図鑑は改訂必至!? (12 月)
- ③ 最初の鳥は翼が 4 枚もあった！ 恐竜から鳥への進化、驚きの新事実。(3月)
- ④ 新時代到来！ 3D プリンタは恐竜研究の救世主となるか？ (11 月)
- ⑤ 体は特大サイズなのに意外と短命？ 巨大恐竜の寿命はたった 25 年……成人式は 15 歳！ (7月)
- ⑥ 容疑者ティラノサウルス、「殺し」の決定的証拠発見。(7月)

- ⑦ ツルツル頭がモテる秘訣？ ハゲ頭恐竜はやっぱり石頭恐竜だった!? (7月)
- ⑧ カナダに落下した巨大隕石の証拠を日本で発見!? (9月)
- ⑨ 史上初!? 恐竜時代の鳥のオス・メスが判明！ (1月)
- ⑩ あの「あまちゃん」で恐竜がNHK朝ドラデビュー!? 中学1年生大手柄、岩手県久慈で肉食恐竜化石発見。(3月)

① 落札額9億円!? 恐竜研究史上最高額になるか、話題の格闘恐竜化石オークションへ。(11月)

2006年にアメリカ・モンタナ州で発見された「闘う恐竜」がオークションにかけられ、大きな話題となりました。これは、2頭の大型恐竜が組み合ったままの状態でも保存された「格闘化石」と呼ばれる非常に珍しい化石で、その希少性や話題性から、落札予想額は驚きの700万～900万ドル!! (*2013年12月現在のレートで約7億3000万～9億4000万円)

化石の落札額としては、1997年に当時最良のティラノサウルス骨格が叩きだした「836万ドル」が今なお最高記録。果たして今回は、それを上回る数字が出るか否か、そして落札するのは一体誰なのか……。多くの人々が固唾をのんで見守っていました。そして今年の11月19日、遂にオークションがスタート。気になる落札結果は……300万ドルから始まった入札金額は、最終的に550万ドルでストップし、なんと、規定の金額に達しなかったため「落札者ナシ」で終了！ 事前の盛り上がり反して、何とも尻すぼみな結末となってしまいました。化石の行く末はまだ決まっていますが、何とかして、正式な研究機関に渡ってくれることを期待したいですね。

② 地味なあの子は「ニワトリ頭」？ 古株恐竜の意外な素顔に、全世界の恐竜図鑑は改訂必至!? (12月)

一般には余り馴染みがないかもしれませんが、「エドモントサウルス」と言えば、どんな恐竜図鑑にも必ず出てくる、昔から良く知られた草食恐竜です(*わからない人は、「ライオンに食べられるシマウマ」⇒「ティラノサウルスに食べられるエドモントサウルス」とイメージしてください)。膨大な量の化石が発見されており、最も良く研究されている恐竜のひとつと言ってもよいでしょう。しかし、2013年も間もなく終わろうというこの時期に、今までのイメージを一変させるニュースが飛び込んできました。新たにカナダで見つかった化石から、頭のとっぺんにニワトリと同じ「肉のトサカ」が発見されたというのです。体の割にやや小さめの丸いトサカですが、これまで、角や飾りを一切持たない「地味な恐竜」と思われていたエドモントサウルスだけに、そのインパクトはかなりのもの！ くまなく研究されていると思われていた恐竜の意外なイメージチェンジ……。またしても、大幅に恐竜図鑑を書きかえるような大発見と言えそうです。

③ 最初の鳥は翼が4枚もあった！ 恐竜から鳥への進化、驚きの新事実。(3月)

最初に「手足合わせて4枚の翼」を持った羽毛恐竜「マイクロプトル」が発見された時には、その余りに奇抜な姿に誰もが衝撃を受けました。何故なら、現在大空を飛び交う鳥たちの翼は全て「前足の2枚だけ」であり、例外は一つも存在しないからです。そのため、「4枚翼はごく珍しい例外的な特徴であり、マイクロプトルのような恐竜は、鳥へと進化する過程で生まれた実験的な生き物だった」というのが今までの常識でした。でもどうやら、私たちはとんでもない誤解をしていたのかもしれない。今回、恐竜時代に生きていた原始的な鳥類の化石を詳しく調査した結果、なんと、後ろ足にも確かに長い羽根が存在する…すなわち、両手両足4枚の翼を持っていたことが判明しました。つまり、私たちがこれまで「例外」だと決めつけていた「4枚翼」の方が初期鳥類の本来の形であり、進化の過程で後ろ足の翼が不要になったために消失し、最終的に今の「2枚翼」の鳥の姿が完成したのではないかと考えられるのです。科学に思い込みや先入観は禁物と言いますが、これもまた、従来の考えを根底からくつがえす大発見だと言えるでしょう。

④ 新時代到来！ 3D プリンタは恐竜研究の救世主となるか!?! (11月)

恐竜研究には不可欠な「岩から化石を取り出す作業」、通称プレパレーション(またはクリーニング)。確かな技術はもちろん、膨大な時間と労力、そして集中力を必要とする大仕事です。せっかくの大発見も、この工程に時間がかかり過ぎて、肝心の研究がなかなか進まない!! なんてことも、珍しくありません。そんな化石研究の常識を覆す画期的な新技術として期待されるのが、最近急速に広まりつつある3D プリントです。北米放射線学会の発表によれば、CT スキャンと3D プリンタを駆使して、岩石に埋まったままの恐竜化石を正確に「再現」することが可能であるとのこと。これなら、どんなに硬い岩盤に埋まっていようと、どんなに脆くて繊細な化石であろうと、何の問題もありません。しかも、収集された「データ」は、瞬時に世界中の研究者で共有可能になります。3D プリンタの導入は、今後の化石研究を根底から変える「大革命」と言えるかもしれません。

⑤ 体は特大サイズなのに意外と短命？ 巨大恐竜の寿命はたった25年……成人式は15歳！ (7月)

遠い昔に絶滅した生き物の正確な寿命なんてわかりっこない…そんな風に言われていたのも今は昔。今や恐竜の寿命や成長は、現代恐竜学において最もホットなトピックの一つです。そして今回の発表は「竜脚形類」と呼ばれる巨大恐竜に関する研究。基本的に「動物は体が大きいほど長生き」という傾向があるため、「全長30m 越え」「体重数十トン級」の超巨大恐竜を多数含む竜脚形類ともなれば一体どれほど長生きすることやら……と思いきや、意外や意外。今回の研究によると、平均的な竜脚形類の寿命はわずか25年! しかも成熟年齢は15歳と、かなりの早熟。何とも意外な結果が出たものです。

⑥ 容疑者ティラノサウルス、「殺し」の決定的証拠発見。(7月)

しばしば最強の肉食恐竜と称されるティラノサウルスですが、同時に「本当に攻撃的なプレデター(捕食動物)だったのか、それとも、主に死肉をあさるスカベンジャー(腐肉食動物)だったのか」という議論もたびたび繰り返されてきました。過去にも、ティラノサウルスの仕業と思われる「噛み痕」のついた恐竜化石は多数発見されていたものの、歯型だけでは決定的証拠とは言えませんでした。しかし今回、とうとう「動かぬ証拠」が発見されたというニュースです。報告によれば、米国サウスダコタ州で発見された植物食恐竜の尾椎(尾の骨)に、ティラノサウルスの歯の先端部分が突き刺さった状態で残されていたとのこと。しかも、この傷には明確に治癒したあとが見られることから、この恐竜が活着している間に噛みつかれ、その後も生き延びていた…ということになるのです。まさに「殺害未遂」の決定的証拠と言えるでしょう。

⑦ ツルツル頭がモテる秘訣? ハゲ頭恐竜はやっぱり石頭恐竜だった!?(7月)

分厚く盛り上がったツルツルの「ハゲ頭」がチャームポイントの「パキケファロサウルス類」の恐竜たち。発見当初は、この頑丈な頭を武器にオス同士で激しい頭突き合戦を繰り返す、勇ましい「石頭恐竜」のイメージで一躍有名恐竜の仲間入りをした彼らですが、その後の詳細な研究では「体の構造上、激しい頭突きなんて無理!」と全否定。彼らのハゲ頭は「せいぜい仲間内で軽く押し合う程度」あるいは「ただの飾り」とけんもほろろ…。ところが、今回更に詳細な研究の結果、成熟したオスの頭頂部に集中的に怪我が痕が見られることが判明。しかも、「メス」や「成熟前の若いオス」とされる個体の頭部には怪我がないことから、どうやら「メスや縄張りをめぐって、オス同士が頭突きで争う石頭恐竜」の復活と言えそうです。彼らの世界ではまさに「ハゲ頭」がモテるためのカギだったということですね。

⑧ カナダに落下した巨大隕石の証拠を日本で発見!?(9月)

今から約 6600 万年前に宇宙から飛来し、恐竜の絶滅を引き起こしたとされる直径 10 km の巨大隕石。しかし今回のニュースは、それよりも更に昔。約 2 億 1500 万年前に地球に衝突したと言われる隕石のお話です。今回、鹿児島大学と九州大学の研究者らが、大分県と岐阜県の岩石に含まれる隕石由来の物質「オスミウム」の量を分析した結果、同隕石の直径を最大 8 km 程度と推定。まだ恐竜が本格的な繁栄を迎える前の三畳紀に、現在のカナダに衝突して巨大な「マニクアガンクレーター」を形成し、周辺の生態系に大きな被害を与えたようです。カナダに落ちた隕石の証拠が、何故よりもよって日本で?! と不思議に思われるかもしれませんが、遠く離れた場所にまで影響を及ぼしているという事実こそが、巨大隕石衝突の証拠の一つでもあるのです。

⑨ 史上初!? 恐竜時代の鳥のオス・メスが判明！ (1月)

恐竜時代に生きていた原始的な鳥「孔子鳥(コンフキウソルニス)」の性別が判明した、というニュースです。以前から孔子鳥には、「尾羽の長いタイプ」と「短いタイプ」の2種類が知られていましたが、今回の報告によると「短いタイプ」の方から、メスの鳥にしかない特徴を発見。つまり「尾羽が長い方がオス」という事になりますが、これは、現代の鳥の「オスの方が派手」という傾向とも一致します。地味なニュースと感じる方もいるかもしれませんが、実は、化石からオスとメスを見分けるのは非常に難しく、完全に判別できることは滅多にないのです。絶滅生物の場合、雌雄が判明しただけでも大ニュースと言っても良いかもしれません。しかも今回は「恐竜時代の鳥としては世界初の快挙」という事で、トップ10入りとしました。

⑩ あの「あまちゃん」で恐竜がNHK朝ドラデビュー!? 中学1年生大手柄、岩手県久慈で肉食恐竜化石発見。(3月)

福井県や丹波をはじめ、近年あちこちから発見報告が寄せられているものの、まだまだ希少な日本の恐竜化石。今回の発見は、岩手県久慈市で見つかった肉食恐竜の化石。発見者は南部町立南部中学1年生の佐々木貴杜君。2012年5月の連休に同市の久慈琥珀博物館を家族で訪問した際、琥珀採掘体験に参加した佐々木君は「木の枝のような怪しい物」を発見。その後、早稲田大学の平山廉教授(古生物学者)の調査により、鳥に近い「コエルロサウルス類」と呼ばれる肉食恐竜の「後ろ足の指の骨」と判明。細くて壊れやすい指の骨がきれいに保存されることは珍しく、また、貴重な化石を見逃さなかった佐々木君の功績を、同教授も高く評価していたそうです。

ところで、このニュースにはちょっとした後日談が…。2013年の流行語大賞にも選出されるなど、何かと話題となったNHK連続テレビ小説『あまちゃん』。その最終回に、この化石発見エピソードが登場したのです! しかも、恐竜の時代や種類についても詳細に語られ、イメージ画像まで挿入されるという徹底ぶり。かくして、恐竜がNHK連続テレビ小説デビューを果たしたのです。

遠く古代のロマンあふれる恐竜の素晴らしさ、楽しさ、奥深さをより多くみなさまに知っていただきたく、今後も継続して情報発信をおこなってまいります。

【“恐竜くん” 田中真士 プロフィール】

1981年、東京生まれ。恐竜研究(古生物学)の最高峰「カナダ アルバータ大学」で、古生物学を中心に広くサイエンスを学ぶ。現在は、日本各地の科学館、博物館の恐竜展やイベントをプロデュースし、次々と入場者動員新記録を打ち立てている日本で初めての恐竜エンタテナー。

※恐竜・古生物学関連について幅広く手がけております

イベント等の企画／監修、講演／ワークショップ、イラスト、執筆／翻訳、化石クリーニング、テレビ／ラジオ出演、など。

詳細は下記リンク先ページをご覧ください。

<http://www.scf.co.jp/kyouryu/>

本件内容・記事転載・引用等に関するお問い合わせ先

●株式会社戦略コンサルティング・ファーム

担当：藤田 浩介

E-Mail) k-fujita@scf.co.jp

TEL 03-3461-8751

東京都渋谷区桜丘町 29-33-306

TEL 03-3461-8751 FAX 03-3461-8786

URL) <http://scf.co.jp/>